

酒造好適米等の需要量調査結果について

令和2年10月

農林水産省 政策統括官

本資料利用にあたっての留意事項

酒造好適米等の需要量調査は、酒造好適米の生産にあたり、各産地が需要に応じた生産を行う上での判断に資するものとして、酒造メーカーのご協力により、農林水産省が酒造好適米及び加工用米の需要量を聞きとったものです。

本資料においては、産地への判断指標として酒造好適米の全体の需給状況等を示すため、調査未報告分や年産ごとの供給過不足等を昨年実施した調査結果及び本調査結果により推計しています。

併せて、各産地銘柄毎についても需要量調査結果とともに、年産毎の増減を示しています。

なお、本調査結果は、調査時点におけるものであり、今後、変動する可能性があることに留意する必要があります。

今後も本調査を引き続き実施し、これまでの推計値や見込値を確定値に修正・検証してまいります。各産地におかれましては、本資料における指標を目安として活用いただき、日本酒原料米の生産及び需要の関係者が連携することにより、需要に応じた生産が行われ安定的な取引の拡大が図られることを期待しています。

酒造好適米等の需要量調査の概要

- 令和2年度調査は、以下により実施。
- 730社、数量ベースで約8割の回答があった（うち、令和元年度から引続き回答があったのは584社）。

	令和元年度調査	令和2年度調査
調査目的	生産者が酒造好適米の作付判断や種子の確保を行う上で参考となる産地銘柄ごとの需要見通しを、目安として情報提供するため	
調査対象	全酒造メーカー（1,430社 ^注 ） 注：清酒の製造を行っていないメーカーを除く	全酒造メーカー（1,421社 ^注 ） 注：清酒の製造を行っていないメーカーを除く
回答数	763社（53%） 回答率は数量ベースで82～84%	730社（51%） 回答率は数量ベースで79～80%
調査方法	調査用紙を調査対象に郵送。酒造組合中央会会員向けHPに調査用紙（電媒）を掲載	
調査項目	産地銘柄別酒造好適米及び加工用米の需要量並びに日本酒の輸出に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年産購入実績 ・平成30年産購入実績（見込） ・令和元年産購入見込 ・令和2年産購入見込 ・令和3年産購入見込 	産地銘柄別酒造好適米及び加工用米の需要量並びに日本酒の輸出に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年産購入実績 ・令和元年産購入実績（見込） ・令和2年産購入見込 ・令和3年産購入見込 ・令和4年産購入見込
調査期間	令和元年7月	令和2年7月
結果の分析・評価	調査結果の説明又は資料送付により原料委員会及び情報交換会メンバーにおいて分析	情報交換会において分析
公表方法	農林水産省HP及び米に関するマンスリーレポート	
公表時期	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年10月4日（令和2年産酒造好適米の需要量（推計値）） ・令和2年2月7日（令和元年産酒造好適米の生産状況） 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年10月9日（酒造好適米の全体需給の推計） ・令和3年2月上旬（予定）（令和2年産酒造好適米の生産状況）

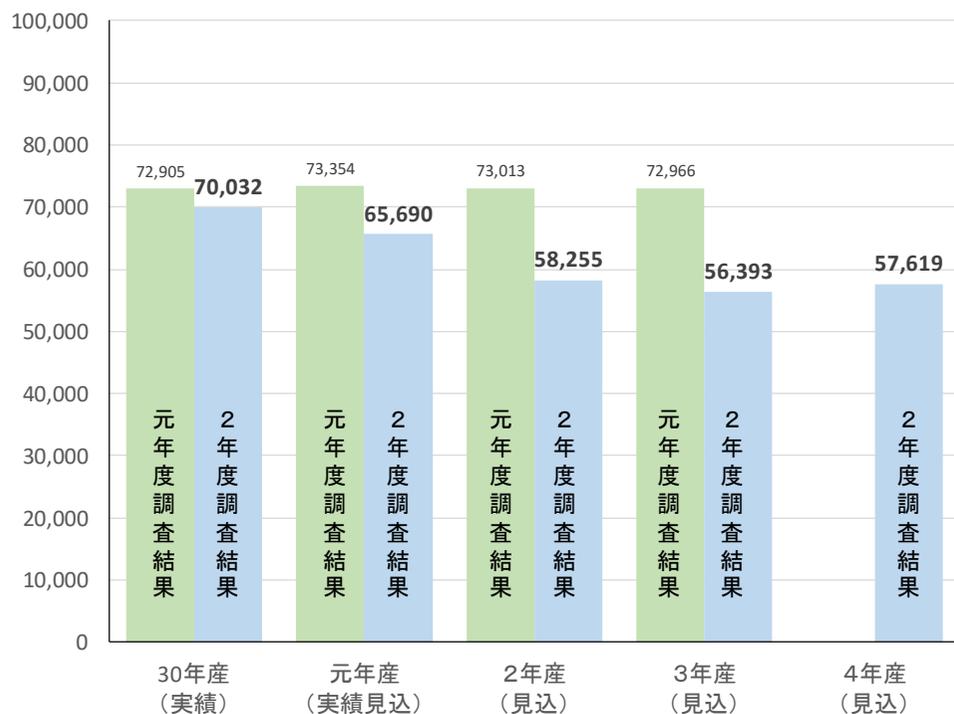
注：令和2度の数量ベースの回答率は、2年度調査の30年産需要実績を元年度調査による30年産酒造好適米の全体需要量（推計値）で除して算出。

酒造好適米等の需要量調査結果

- 今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和3年産酒造好適米の需要見込みは、合計で56千トと平成30年産に比べて▲19%と大幅に減少するという結果。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産米の需要量は、平成30年産に比べて±0%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、業務用の日本酒を中心に国内出荷量が減少し、輸出も大幅に減少していることから、需要量が▲19%となったと考えられる。
- また、令和元年産及び令和2年産の需要見込みについても、平成30年産を基準として昨年度の需要量調査からそれぞれ▲7%、▲17%分の需要量が減少しているため、在庫が大幅に増加すると見込まれる。
- 酒造好適米と併せて調査した加工用米の需要量についても、酒造好適米と同様に需要が大幅に減少する見込みとなっている。

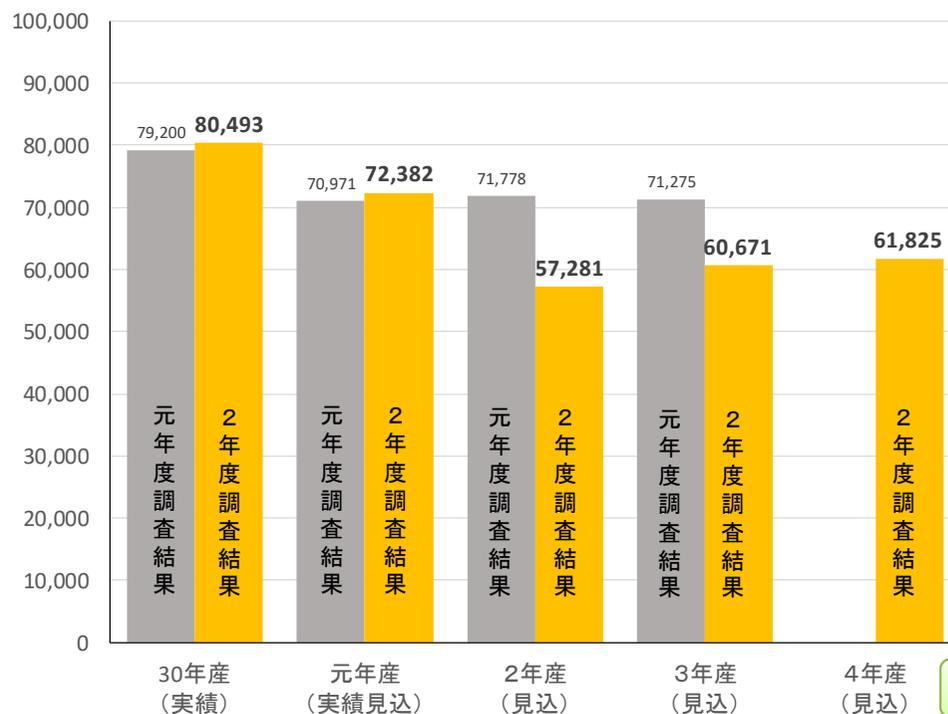
○ 酒造好適米の需要量調査結果

(単位:ト)



○ 加工用米の需要量調査結果

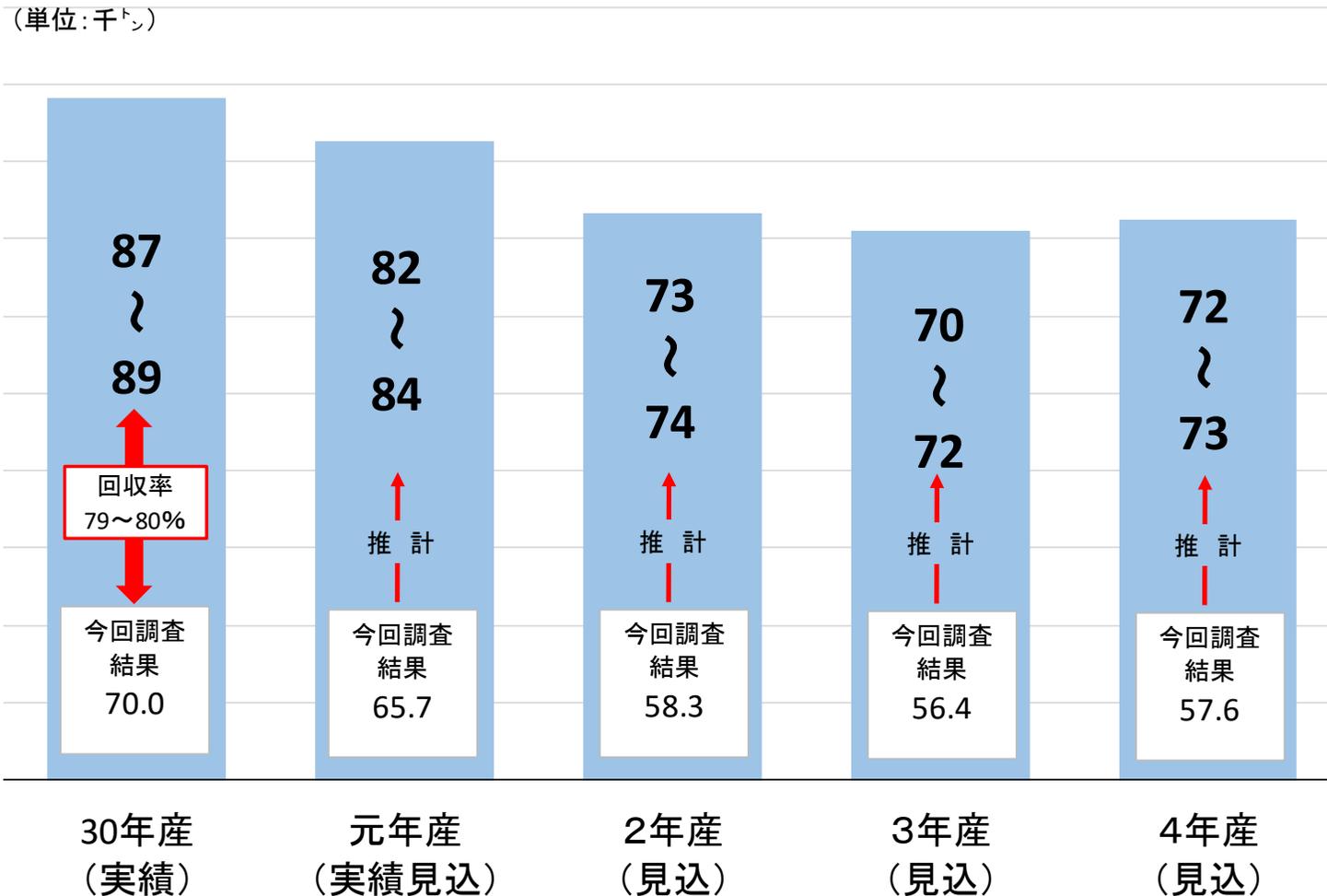
(単位:ト)



酒造好適米の全体需要量の推計

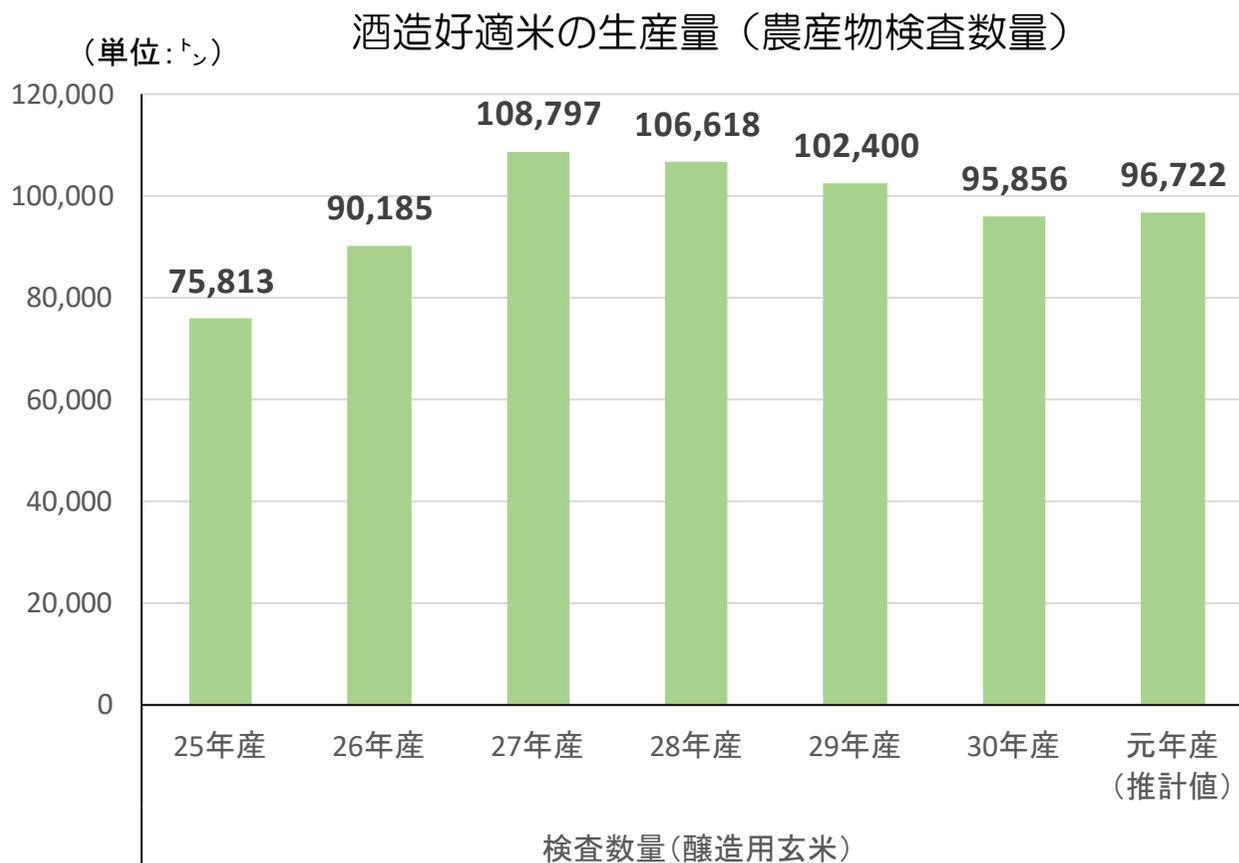
- 今回の需要量調査の回答率（数量ベース）は約79～80%と推計され、この回答率を用いて全体需要量を推計すると、令和元年産は82～84千ト、令和2年産は73～74千ト、令和3年産は70～72千ト、令和4年産は73～74千ト程度と推計される。

酒造好適米の全体需要量（推計値）



酒造好適米の生産動向

- 酒造好適米の生産動向（農産物検査数量）については、特定名称酒の増加等による需要の増加に伴って生産量が増加し、平成26年産で概ね酒造メーカーの希望に見合った生産が行われたと考えられる。
- 平成27年産は、作付面積の増加や作柄が良かったこと等から大幅に生産量が増加したため供給過剰となった。その後は、需要減少に伴って生産抑制しており、生産量は減少傾向となっている。
- 平成30年産は、生産抑制と主産地の兵庫県等で作柄が悪かったことから、対前年▲7千ト（▲6%）となった。
- 令和元年産（推計値）は、作付面積は若干減少したと見込まれるが、平成30年産より作柄が良かったため、昨年とほぼ同程度の97千ト程度となると見込まれる。



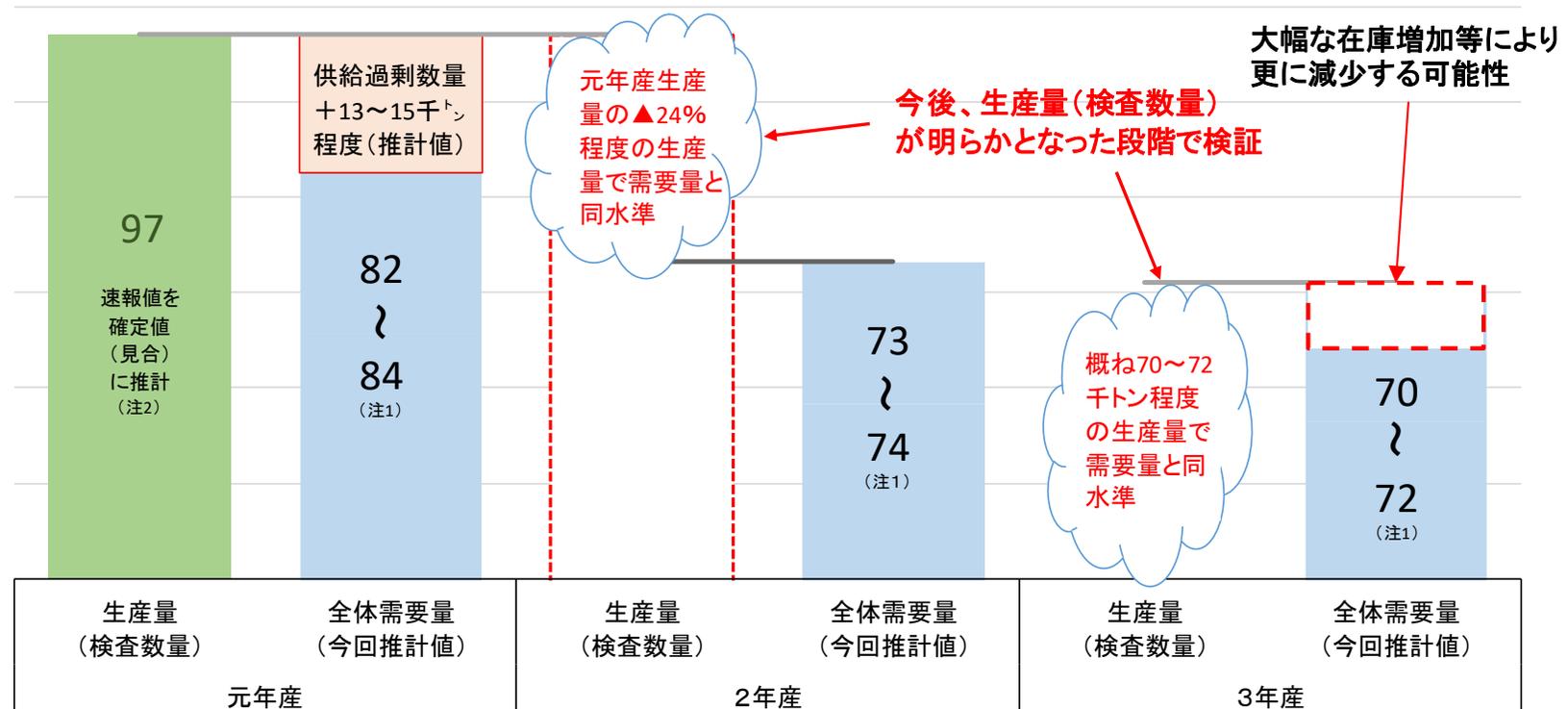
注：農産物検査数量（醸造用玄米）の元年産（推計値）は、令和2年3月31日現在の速報値を直近3力年の3月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

酒造好適米等の需要量調査結果等に基づく全体需給の推計（試算）

- 令和元年産については、全体需要量（推計値）と生産量（検査数量）を比較すると、+13~15千トン程度供給過剰となっていると推計される。
- 令和2年産については、全体需要量が令和元年産の生産量の▲23千トン（▲24%）程度と大幅に減少していることから、大幅な供給過剰となると見込まれる。
- 令和3年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、70~72千トン程度の生産量（令和元年産の生産量の▲26千トン（▲27%）程度）と大幅に生産抑制する必要がある。
- また、令和元年産及び令和2年産において大幅な供給過剰が発生し、在庫が大幅に増加すると見込まれることを踏まえると、需給均衡にはさらに大幅な生産抑制が必要と考えられる。

（単位：千トン）

酒造好適米（醸造用玄米）の全体需給の状況



注1：各年産の全体需要量(今回推計値)は、今回の需要量調査の数量ベース回収率が、平成30年産酒造好適米の全体需要量(87~89千トン)と今回調査の平成30年産の需要量(約70千トン)から約79~80%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2：生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和元年産は、令和2年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の進捗率により確定値見合いに推計。

産地別・銘柄別需要量調査結果等について

- 1 全体需給（推計）の状況については、
 - ① 新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、令和元年産及び2年産の需要量は大幅に減少。
 - ② 令和3年産は、令和2年産からさらに減少すると見込まれると整理しています。
- 2 こうした状況を踏まえ、各産地では、自らの産地・銘柄別の需要に応じた生産を図っていく必要があります。

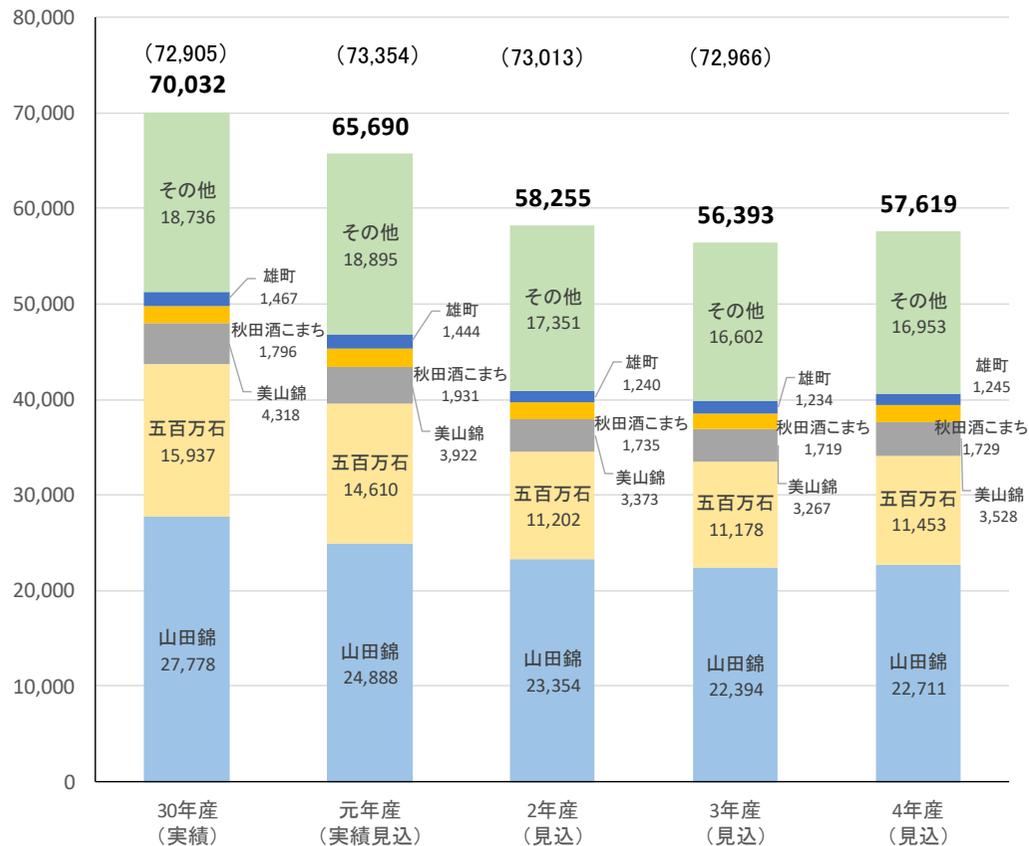
このため、その判断指標として本資料では、

 - ① 各産地銘柄毎の需要量調査結果（酒造メーカーからの回答）及び各年産ごとの増減の動向
 - ② 主要産地銘柄の平成29～令和元年産の生産量（農産物検査数量）を掲載しました。
- 3 各産地においては、これらのデータ等を参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、令和3年産の需要に応じた生産に取り組むことが重要と考えられます。

酒造好適米等の需要量調査結果概要（銘柄別・産地別）

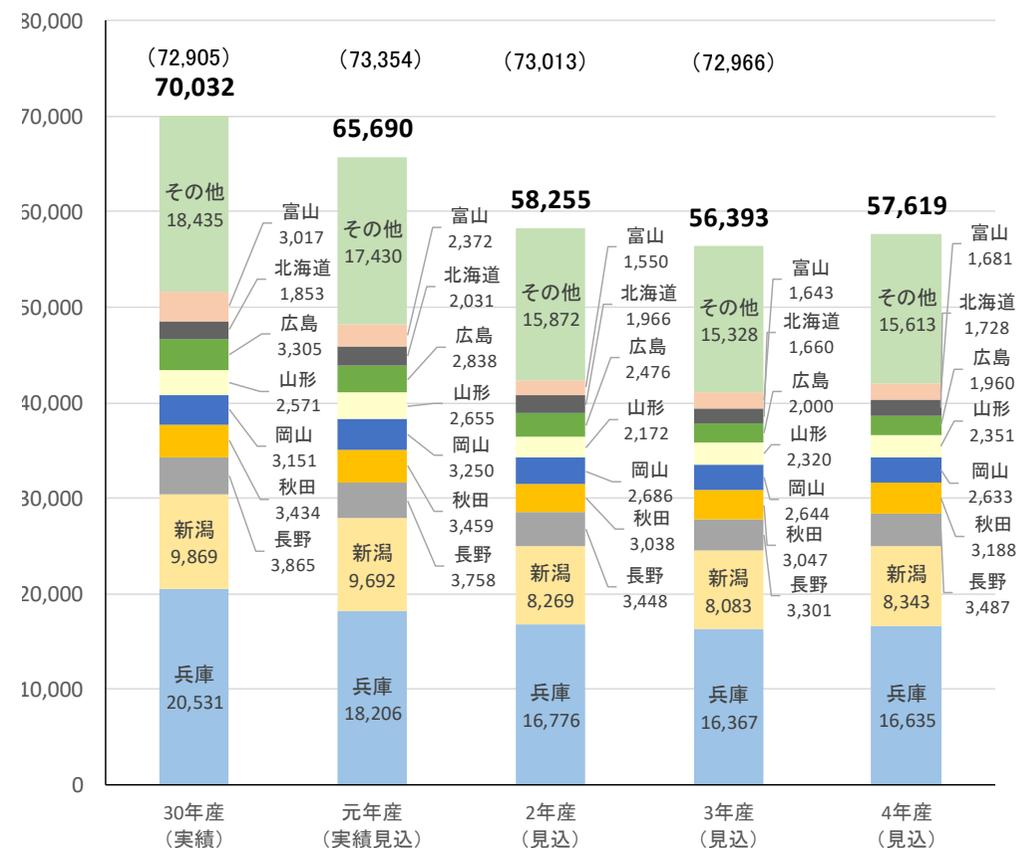
- 今回の調査における銘柄別の需要量は、山田錦が最も多く、次いで五百万石、美山錦、秋田酒こまち、雄町の順。産地別の需要量は、兵庫県が最も多く、次いで新潟県、長野県、秋田県、岡山県の順。
- 新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、主要な銘柄、産地の需要量はいずれも減少しており、令和3年産米の全体需要量は、平成30年産に比べて▲19%と大幅に減少。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産米の全体需要量は、平成30年産に比べて±0%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により需要量が▲19ポイントとなったと考えられる。

（単位：ト） 需要量調査結果（銘柄別）



注：()は前年度の需要量調査結果

（単位：ト） 需要量調査結果（産地別）



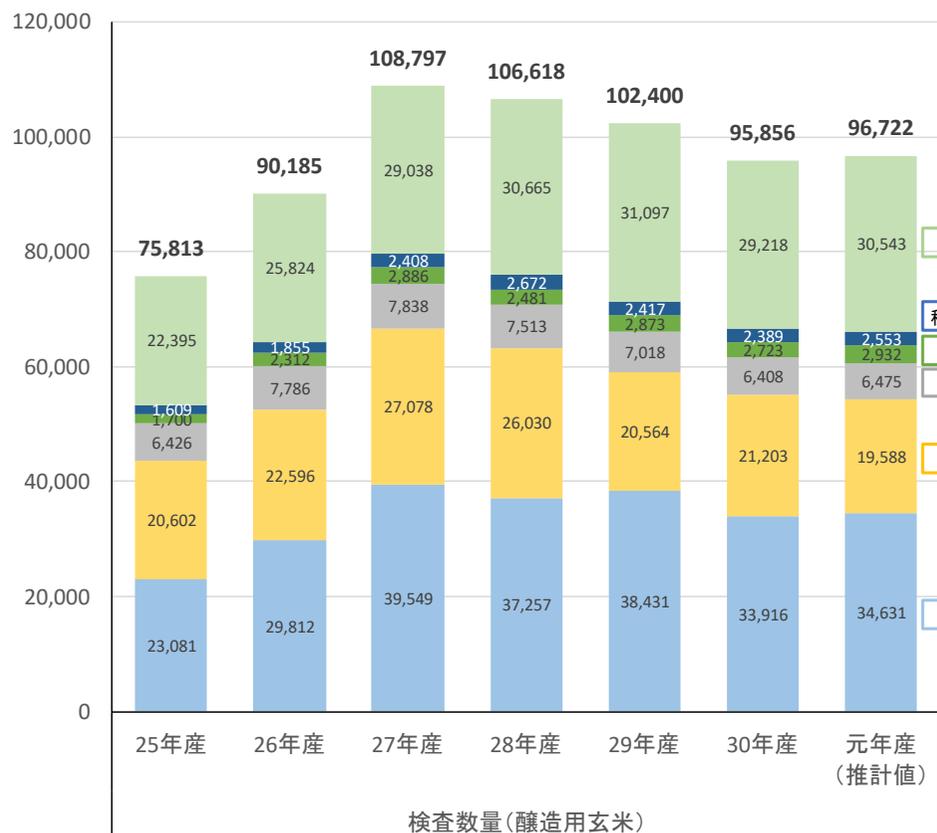
注：()は前年度の需要量調査結果

酒造好適米の銘柄別・産地別生産動向

- 酒造好適米の生産量（農産物検査数量（醸造用玄米））は、平成28年産以降、全体需要量が減少する中、産地において需要動向を踏まえた生産に取り組んだ結果、減少しているところ。
- 銘柄別の生産量は、山田錦、五百万石、美山錦は減少傾向にあるが、雄町や秋田酒こまちといった限られた産地で生産される品種は概ね堅調に推移している。
- 産地別の生産量は、兵庫県、新潟県、長野県等の主要な産地の生産量は減少傾向にあるが、その他の産地の合計は堅調に推移しており、自県産米志向が強まっていると考えられる。

酒造好適米の生産量（銘柄別）

（単位：トン）



酒造好適米の生産量（産地別）

（単位：トン）

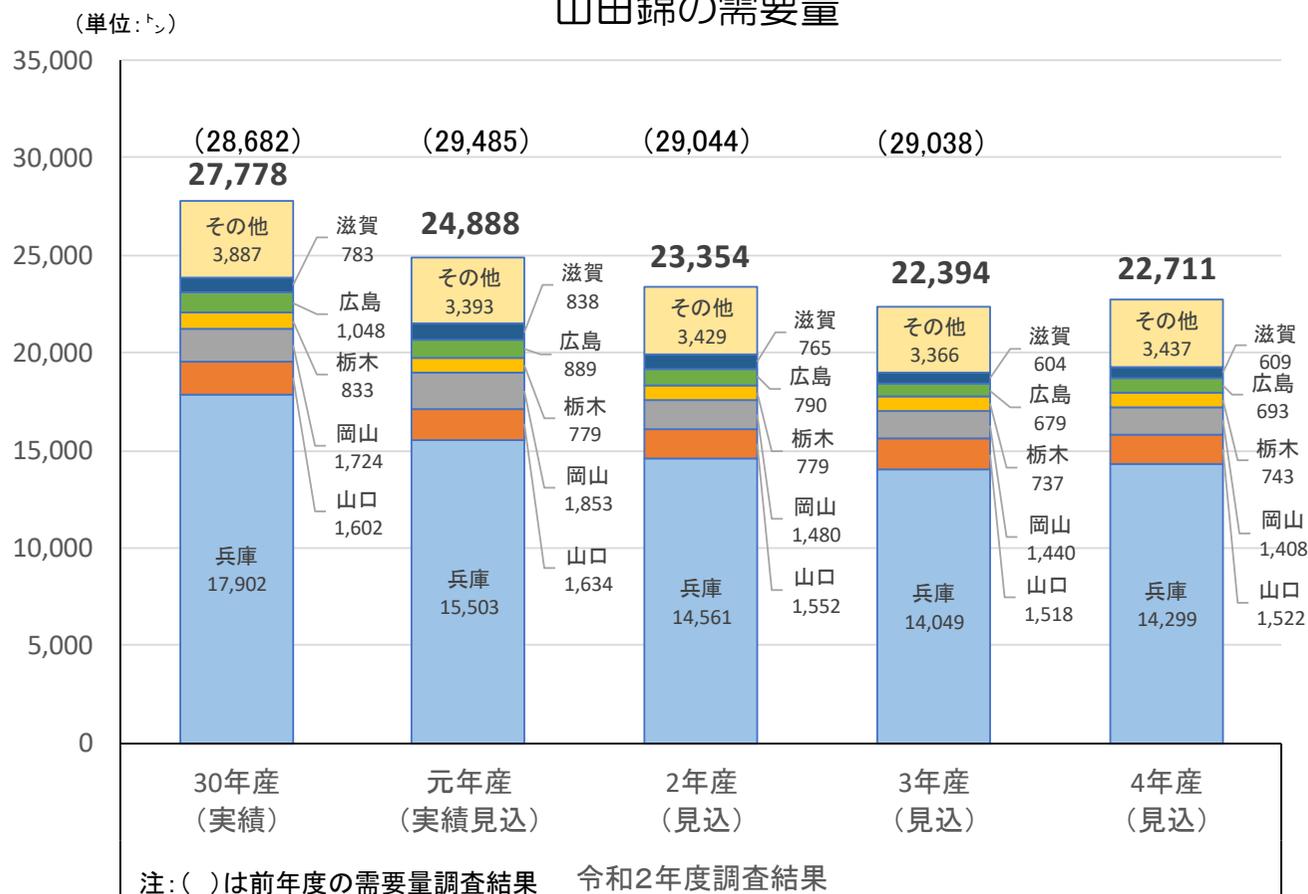


注：農産物検査数量（醸造用玄米）の元年産（推計値）は、令和2年3月31日現在の速報値を直近3力年の3月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計したものである。

主な酒造好適米の需要量調査結果（山田錦）

- 令和3年産の山田錦の需要量は、平成30年産に比べて▲19%と大幅に減少。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産の山田錦の需要量は、平成30年産に比べて+1%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により平成30年産を基準として▲20%分の需要が減少したと考えられる。
- 令和3年産の需要量については、令和元年産及び令和2年産において大幅な供給過剰が発生し、在庫が大幅に増加した場合、更に減少する可能性がある。

山田錦の需要量

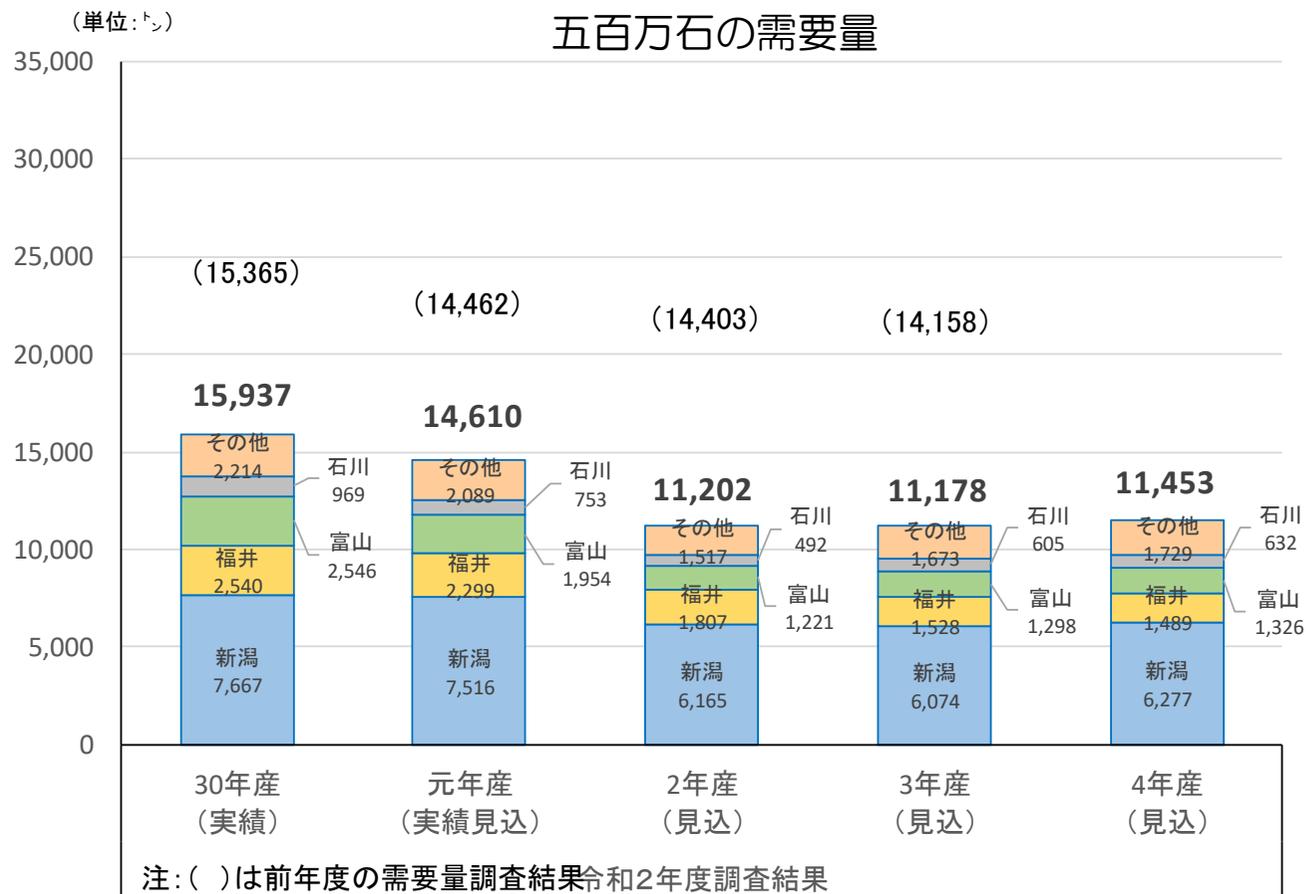


【参考】山田錦の生産量(検査数量)

38,431	33,916	34,631
(29年産)	(30年産)	(元年産(推計値))

主な酒造好適米の需要量調査結果（五百万石）

- 令和3年産の五百万石の需要量は、平成30年産に比べて▲30%と大幅に減少。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産の五百万石の需要量は、平成30年産に比べて▲8%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により平成30年産を基準として▲22%分の需要が減少したと考えられる。
- 令和3年産の需要量については、令和元年産及び令和2年産において大幅な供給過剰が発生し、在庫が大幅に増加した場合、更に減少する可能性がある。

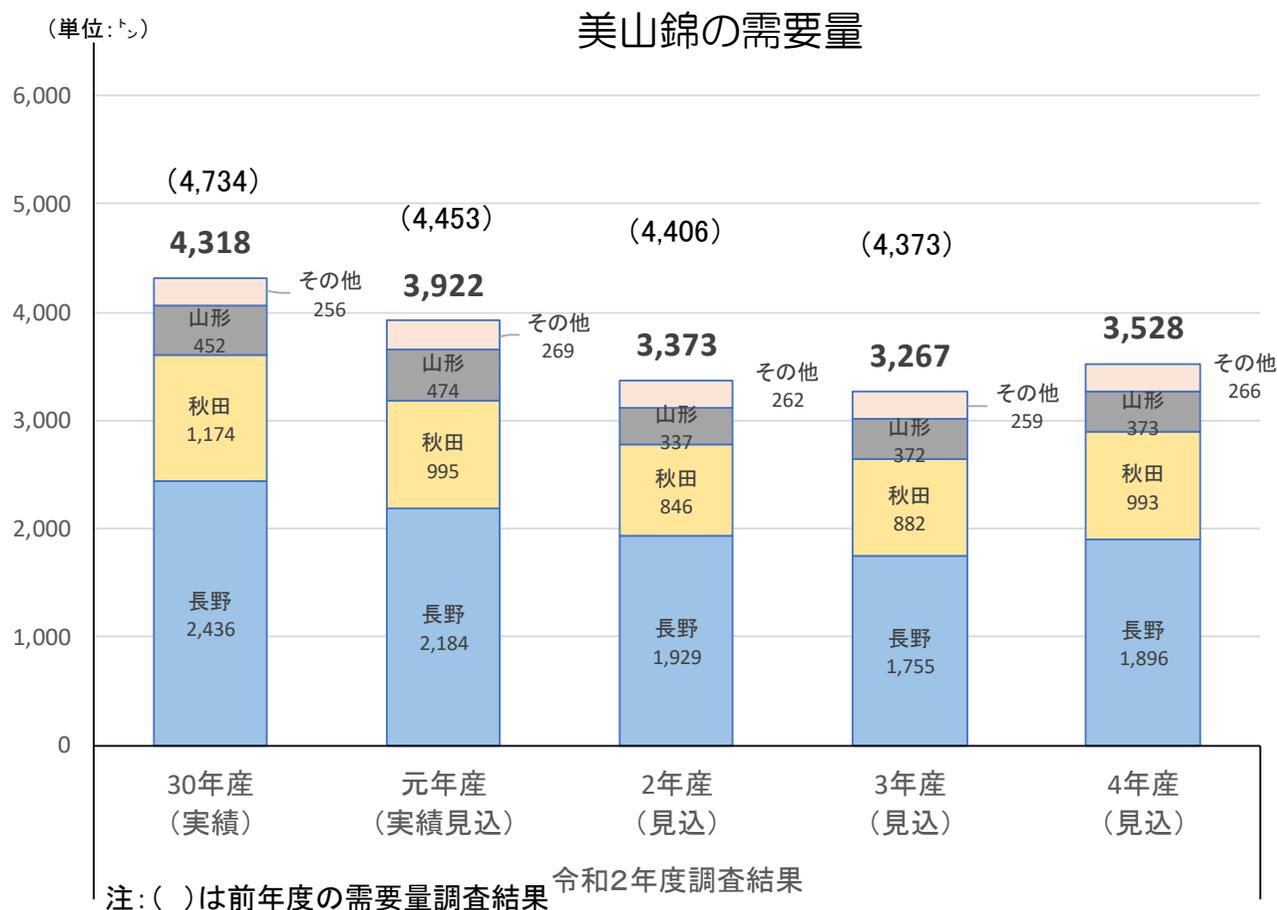


【参考】五百万石の生産量(検査数量)

20,564 (29年産) 21,203 (30年産) 19,588 (元年産(推計値))

主な酒造好適米の需要量調査結果（美山錦）

- 令和3年産の美山錦の需要量は、平成30年産に比べて▲24%と大幅に減少。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産の美山錦の需要量は、平成30年産に比べて▲8%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により平成30年産を基準として▲16%分の需要が減少したと考えられる。
- 令和3年産の需要量については、令和元年産及び令和2年産において大幅な供給過剰が発生し、在庫が大幅に増加した場合、更に減少する可能性がある。

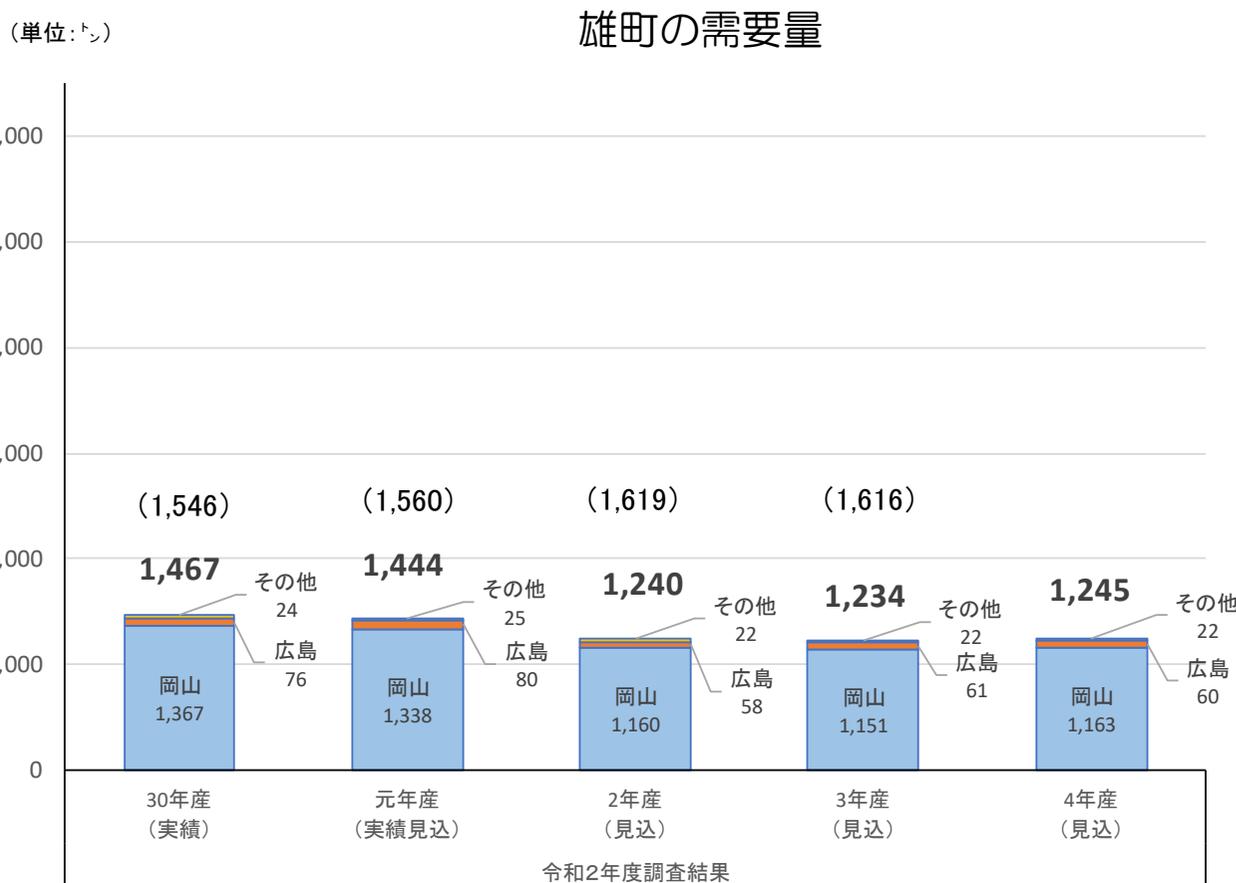


【参考】美山錦の生産量（検査数量）

7,018 (29年産) 6,408 (30年産) 6,475 (元年産(推計値))

主な酒造好適米の需要量調査結果（雄町）

- 令和3年産の雄町の需要量は、平成30年産に比べて▲16%と大幅に減少。
- 昨年度の需要量調査においては、令和3年産の雄町の需要量は、平成30年産に比べて+5%であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により平成30年産を基準として▲21%分の需要が減少したと考えられる。
- 令和3年産の需要量については、令和元年産及び令和2年産において大幅な供給過剰が発生し、在庫が大幅に増加した場合、更に減少する可能性がある。



注:()は前年度の需要量調査結果

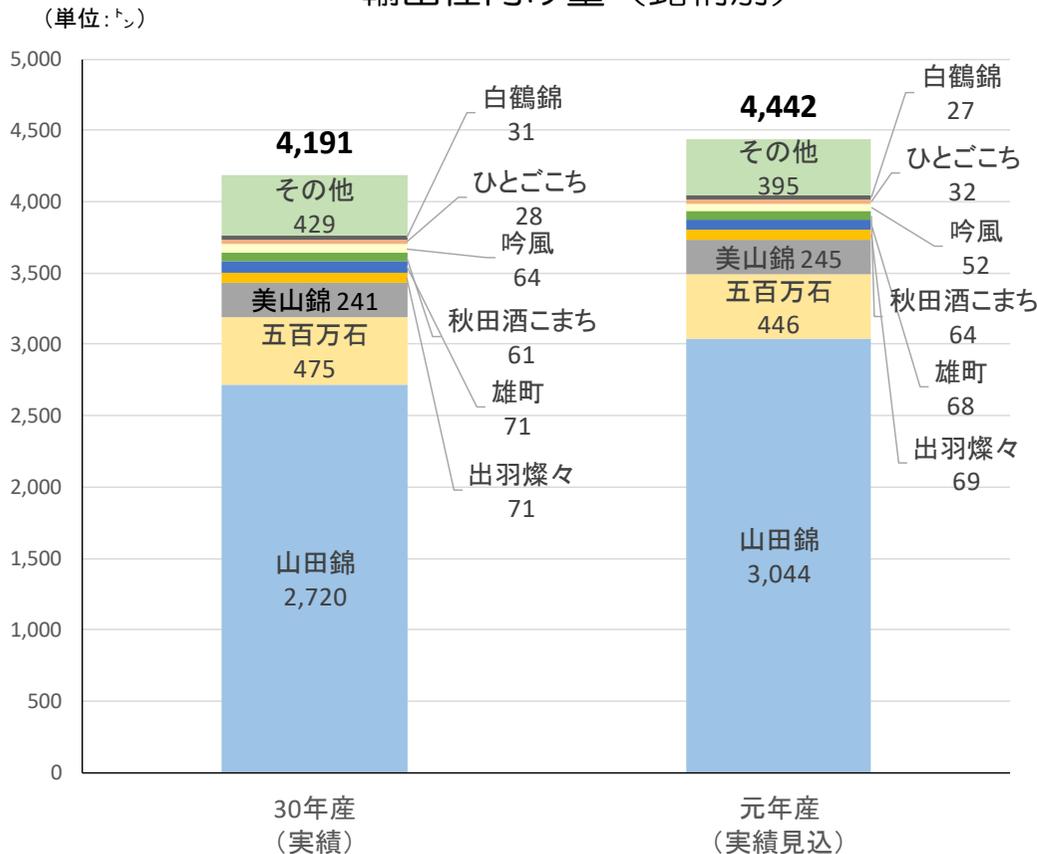
【参考】雄町の生産量(検査数量)

2,873 (29年産) 2,723 (30年産) 2,932 (元年産(推計値))

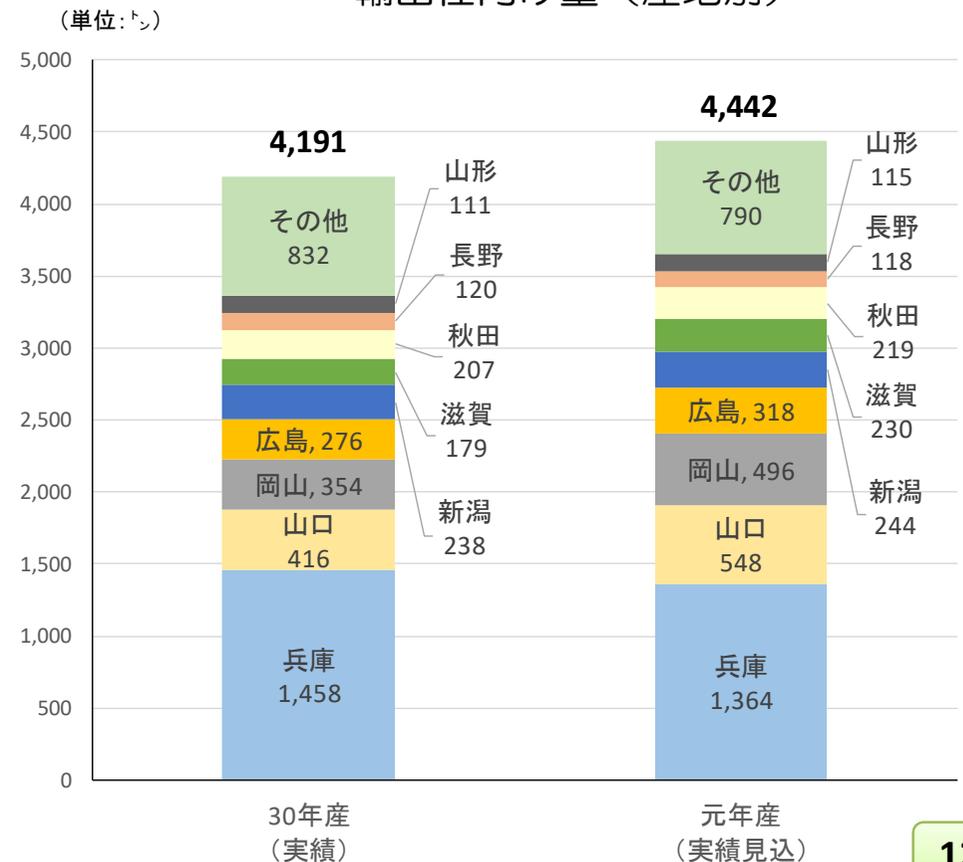
酒造好適米等の需要量調査結果概要（輸出仕向量）

- 輸出仕向量は、輸出仕向割合の回答があった酒造メーカーの数を合計したもので、平成30年産では、酒造好適米は4,191ト（輸出仕向割合6.0%）、加工用米は2,519ト（輸出仕向割合3.1%）、令和元年産では、酒造好適米は4,442ト（輸出仕向割合6.8%）、加工用米は2,159ト（輸出仕向割合3.0%）であった。なお、日本酒の輸出は行っているものの、輸出仕向割合が未回答の酒造メーカーもあった。
- 銘柄別では、生産量の多い銘柄、産地の輸出仕向量が多く、特に山田錦の輸出仕向割合が高かった。また、産地別では、比較的生産量の少ない山口、滋賀などの産地の輸出仕向量が多かった。

輸出仕向け量（銘柄別）



輸出仕向け量（産地別）



酒造好適米の需要量調査結果概要（需要動向①）

		元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
北海道		↑	↓	↓	↑
	吟風	↑	↓	↓	→
	慧星	↑	↑	↓	↑
	きたしずく	→	↑	↓	→
	その他・未定	↓	↓	↑	→
青森		↑	↓	↓	↑
	華吹雪	↑	↓	↓	→
	華想い	↑	↓	↓	↑
	吟鳥帽子	↑	↓	↓	↑
	華さやか	↓	↓	↓	↑
その他・未定	↑	↓	→	→	
岩手		↑	↓	↓	↑
	吟ぎんが	↑	↓	→	↑
	ぎんおとめ	↓	↑	↓	↑
	結の香	↑	↑	↓	↑
その他・未定	↑	↓	↑	↑	
宮城		↑	↓	↓	→
	蔵の華	↑	↓	↓	↓
	美山錦	↓	↓	→	↑
	吟のいろは	↑	↓	↑	↑
	山田錦	↓	↓	→	→
	ひより	↓	↓	→	→
その他・未定	↑	↓	→	→	
秋田		→	↓	→	↑
	秋田酒こまち	↑	↓	→	→
	美山錦	↓	↓	↑	↑
	吟の精	↑	↑	↓	↓
	美郷錦	↑	↓	↓	↑
	秋の精	↓	↓	↑	↑
	星あかり	↑	↓	↑	↓
	百田	↑	↓	↓	↑
	一穂積	↑	↑	→	↑
	華吹雪	↑	↓	↓	↑
	改良信交	→	↓	→	→
その他・未定	↑	↓	↑	→	
山形		↑	↓	↑	↑
	出羽燦々	↓	↓	↑	↑
	美山錦	↑	↓	↓	→
	出羽の里	↑	↓	→	↑
	雪女神	↑	↓	↑	→
	酒未来	↑	→	→	↑
	山酒4号	↑	↓	↑	→
	改良信交	↑	↓	→	→
	龍の落とし子	↑	↑	→	→
	羽州誉	↑	↓	→	→
	五百万石	↓	↑	→	→
	亀粋	↑	→	↑	→
	豊国	↓	→	→	→
	京の華	→	↓	→	→
	その他・未定	↑	↓	↓	→

		元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
福島		↓	↓	↑	↑
	五百万石	↓	↓	↑	↑
	夢の香	↓	↑	↑	→
	美山錦	↑	↑	↓	→
	華吹雪	↑	↓	↓	→
	山田錦	↑	↑	→	→
	福乃香	↑	↑	↑	↑
茨城		↓	→	↓	→
	渡船	↓	↑	→	→
	美山錦	↑	↓	↑	→
	山田錦	↓	→	↓	→
栃木		↓	↓	↓	↑
	山田錦	↓	→	↓	→
	五百万石	↓	↓	↑	→
	夢ささら	↑	↑	↑	↑
	とちぎ酒14	↓	↓	↑	→
群馬		↑	↓	↓	→
	舞風	↓	↓	↑	→
	山酒4号	→	↓	→	→
	山田錦	↑	↑	→	→
	若水	↑	↓	↓	→
埼玉		↑	↓	↑	↑
	さけ武蔵	↑	↓	↑	↑
	五百万石	↑	↓	↑	→
千葉		↓	↓	↑	↑
	五百万石	↑	↓	↑	→
	総の舞	↓	↓	↑	↑
東京		↓	↑	→	→
	山田錦	↑	↑	→	→
	その他・未定	↓	↑	→	→
神奈川		→	↓	↑	↑
	若水	↓	↓	→	→
	山田錦	↑	↑	↓	→
新潟		↓	↓	↓	↑
	五百万石	↓	↓	↓	↑
	越淡麗	↑	↑	↓	↑
	山田錦	↓	↑	↓	→
	たかね錦	↓	↓	↓	↑

		元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
新潟 (つづき)	菊水	↑	↓	→	→
	北陸12号	↑	→	→	→
	越神楽	↑	↑	↓	↑
	楽風舞	↓	↑	→	→
	その他・未定	↑	↓	↑	→
富山		↓	↓	↑	↑
	五百万石	↓	↓	↑	↑
	山田錦	↑	↓	↑	↑
	雄山錦	↓	↓	↑	→
	富の香	↓	↓	↑	→
石川		↓	↓	↑	↑
	五百万石	↓	↓	↑	↑
	石川門	↑	↓	↑	↓
	万石乃白	↑	↑	→	↑
	山田錦	↑	↓	↑	→
福井		↓	↓	↓	↓
	五百万石	↓	↓	↓	↓
	山田錦	↓	↓	↓	↑
	越の雫	↓	↑	↓	↑
	さかほまれ	↑	↑	↑	↑
山梨		↑	↓	↑	↑
	夢山水	↑	↓	↑	↑
	ひとごち	↑	↑	↑	↑
	玉栄	↓	↓	↑	↑
	山田錦	↑	↓	↑	↑
長野		↓	↓	↓	↑
	美山錦	↓	↓	↓	↑
	ひとごち	→	↓	↑	↑
	金紋錦	↑	↑	→	↑
	山恵錦	↑	↑	↑	↑
岐阜		↑	↓	↓	↑
	ひだほまれ	↑	↓	↓	↑
	揖斐の誉	↑	→	↑	→
	五百万石	↓	↑	↑	→
	その他・未定	↑	↓	→	→

注：表の矢印は、各年産の需要量が、前年より1%を超えて増加したものを「↑：増加」、1%を超えて減少したものを「↓：減少」、それ以外を「→：前年並み」で分類したものを。以下次頁同じ。
各産地品種銘柄の需要量の実数については、資料4を参照。

酒造好適米の需要量調査結果概要（需要動向②）

	元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
静岡	↓	↑	↓	↑
誉富士	↓	↑	↓	↑
山田錦	↓	↓	↓	↑
五百万石	↑	↓	↑	→
その他・未定	↓	↑	→	→
愛知	↓	↓	↓	→
若水	↑	→	↑	→
夢山水	↓	↓	↓	↑
夢吟香	↓	↓	↓	↓
山田錦	↓	↑	↑	↓
三重	↓	↓	↑	↑
山田錦	↓	↓	↑	↓
神の穂	↓	↓	→	↑
五百万石	↓	↑	↑	↑
滋賀	→	↓	↓	↑
山田錦	↑	↓	↓	→
吟吹雪	↓	↓	↓	↑
玉栄	↓	↓	↓	↑
滋賀渡船6号	↓	↑	↑	→
その他・未定	↓	↓	↓	→
京都	↓	↑	↓	↓
祝	↓	↑	↓	↓
五百万石	↓	↑	↑	↑
山田錦	→	↓	↓	→
大阪	↑	↑	↑	↑
山田錦	↑	↑	↑	↑
雄町	→	↑	→	→
兵庫	↓	↓	↓	↑
山田錦	↓	↓	↓	↑
五百万石	↑	↓	↑	↑
白鶴錦	→	↑	→	→
愛山	↑	↓	→	→
フクノハナ	↓	↓	↑	→
兵庫夢錦	↓	↓	↓	→
兵庫恋錦	↑	→	→	→
兵庫北錦	↓	↓	↑	↑
山田穂	↑	↑	→	→
兵庫錦	↑	↑	↓	↑
Hyogo Sake 85	↑	↑	↑	↑
いにしへの舞	↓	→	→	→
渡船2号	↑	↓	→	→
新山田穂1号	↓	↑	→	→
神力	↓	↓	→	→
但馬強力	↑	↓	→	→
辨慶	↑	↓	→	→
杜氏の夢	↓	→	→	→
野条穂	↑	→	↑	→
白菊	↓	↓	→	→
その他・未定	↓	↓	↓	↑

	元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
奈良	→	↓	→	→
山田錦	→	↓	→	→
露葉風	→	→	→	→
その他・未定	↑	↓	↑	↑
和歌山	↓	↑	↑	→
五百万石	↓	↓	↑	→
山田錦	↓	↑	→	→
鳥取	↓	↓	↑	↑
山田錦	↑	↓	↑	↑
強力	↓	↓	↓	↑
五百万石	↓	↓	↑	↑
玉栄	↓	↓	→	→
鳥系酒105号	↓	↑	→	→
その他・未定	↓	→	→	→
島根	↓	↓	↑	↑
五百万石	↓	↓	↓	↑
山田錦	↓	↓	↑	↑
佐香錦	↓	↓	↑	↑
改良雄町	↓	↓	↑	→
神の舞	↓	↓	↑	↓
緑の舞	↑	↑	↑	↑
改良八反流	↓	↓	↑	→
岡山	↑	↓	↓	→
山田錦	↑	↓	↓	↓
雄町	↓	↓	→	↑
吟のさと	→	→	→	→
その他・未定	↓	↓	↑	↑
広島	↓	↓	↓	↓
八反錦1号	↓	↓	↓	↓
山田錦	↓	↓	↓	↑
八反	↓	↓	↓	↓
千本錦	↓	↓	↓	↑
雄町	↑	↓	↑	→
こいおまち	↑	↓	↑	↑
その他・未定	↓	↓	↓	→
山口	↓	↓	→	↑
山田錦	↑	↓	↓	→
西都の雫	↓	↑	↑	↑
白鶴錦	↓	↑	→	→
五百万石	↓	↑	→	→
その他・未定	↑	↓	→	→
徳島	↓	↓	↓	↑
山田錦	↓	↓	↓	↑
吟のさと	↓	↑	→	→
香川	↓	↑	→	→
山田錦	↓	↑	→	→
愛媛	↓	↓	↓	↓
しずく嬢	↓	↓	↓	↓
山田錦	↓	↓	→	→
その他・未定	→	→	→	→

	元年産と 前年の比較	2年産と 前年の比較	3年産と 前年の比較	4年産と 前年の比較
高知	↑	↓	↑	→
吟の夢	↑	↓	↑	→
山田錦	↓	↑	→	→
土佐麗	↑	↑	↑	↑
風鳴子	→	↓	→	→
その他・未定	↑	↑	→	→
福岡	↓	↓	↑	↑
山田錦	↓	↓	↑	↑
吟のさと	↑	→	→	→
雄町	↑	↓	→	→
壽限無	↑	↓	↑	↓
その他・未定	↑	↓	↑	↑
佐賀	↓	↑	↑	→
山田錦	↓	↑	↑	↑
さかの華	↓	↑	↑	↓
その他・未定	↓	↑	→	→
長崎	↓	↑	↓	↑
山田錦	↓	↑	↓	↑
その他・未定	→	→	↑	↑
熊本	↓	↓	↑	↓
華錦	↓	↑	↑	↓
山田錦	↓	↓	→	→
神力	↑	↓	↑	→
その他・未定	↓	↓	↑	→
大分	↓	↑	↑	↓
山田錦	↓	↑	↑	→
五百万石	↓	↑	↑	↓
吟のさと	↑	↑	↑	→
若水	↓	→	→	→
雄町	↑	↑	→	→
その他・未定	↓	↑	→	→
宮崎	↓	↓	→	→
はなかくら	↓	↓	→	→
山田錦	↓	↓	→	→
鹿児島	↑	→	→	→
その他・未定	↑	→	→	→